

## 球磨川（熊本県）の現地調査概要

- ・熊本県の球磨川では、台風や集中豪雨により、昭和 40 年 7 月の「梅雨前線による大雨（昭和 40 年 7 月洪水）」を始めとする水害が幾度も発生している。
- ・文献調査に基づき、過去の記録が残る地域において詳細情報を収集した。

### 調査地点：熊本県球磨川



▲調査箇所図

出典：国土地理院

### 【梅雨前線による大雨（昭和 40 年 7 月洪水）の概要】

- ・昭和 40 年 7 月の九州一帯を襲った梅雨後期の停滞前線による豪雨は、球磨川全域に豪雨をもたらした。球磨川では 6 月 28 日ごろから雨が降り続き、7 月 2 日の夜半ごろから流域の各地で 4～5 時間に及ぶ豪雨となり、またたく間に増水し球磨川の至る所で氾濫した。（この大雨は 6 月 26 日から 7 月 6 日まで続いたとされている）
- ・特に人吉市では市街地の 3 分の 2 が浸水するとともに 20 数戸が流され、人吉水位観測所では計画高水位を大幅に上回る水位 (6.70m) を記録する大洪水になった。
- ・鹿児島県では 199 箇所のがけ崩れが生じ、2 名が亡くなった。

### ▼昭和 40 年 7 月洪水による球磨川水系の被災状況

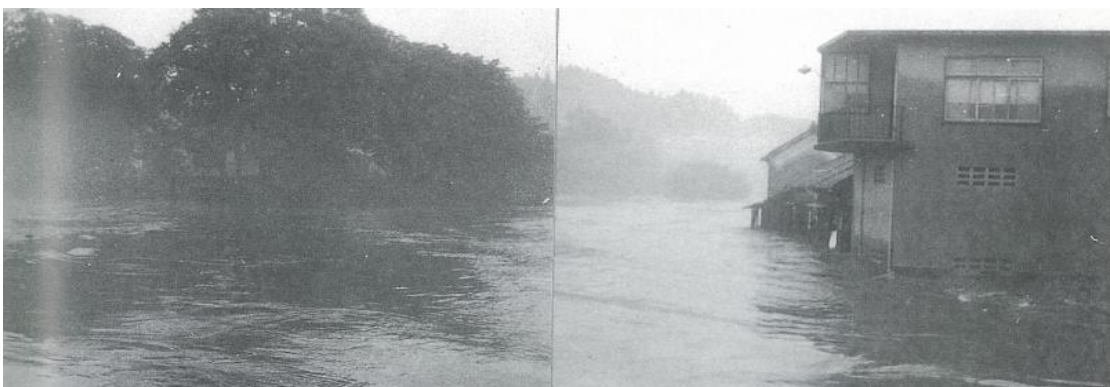
死者及び行方不明者	6 名
流失及び全半壊戸数	1,239 戸
床上浸水	2,847 戸

出典：災害記録集「暴れ川 球磨川」（九州地方建設局 八代工事事務所、川辺川工事事務所）

**【昭和40年7月洪水の被災状況】**



▲人吉大橋九日町下流



▲球磨川胸川合流点付近



▲最も被害が大きかった人吉市内



▲天狗橋（人吉市大柿町）

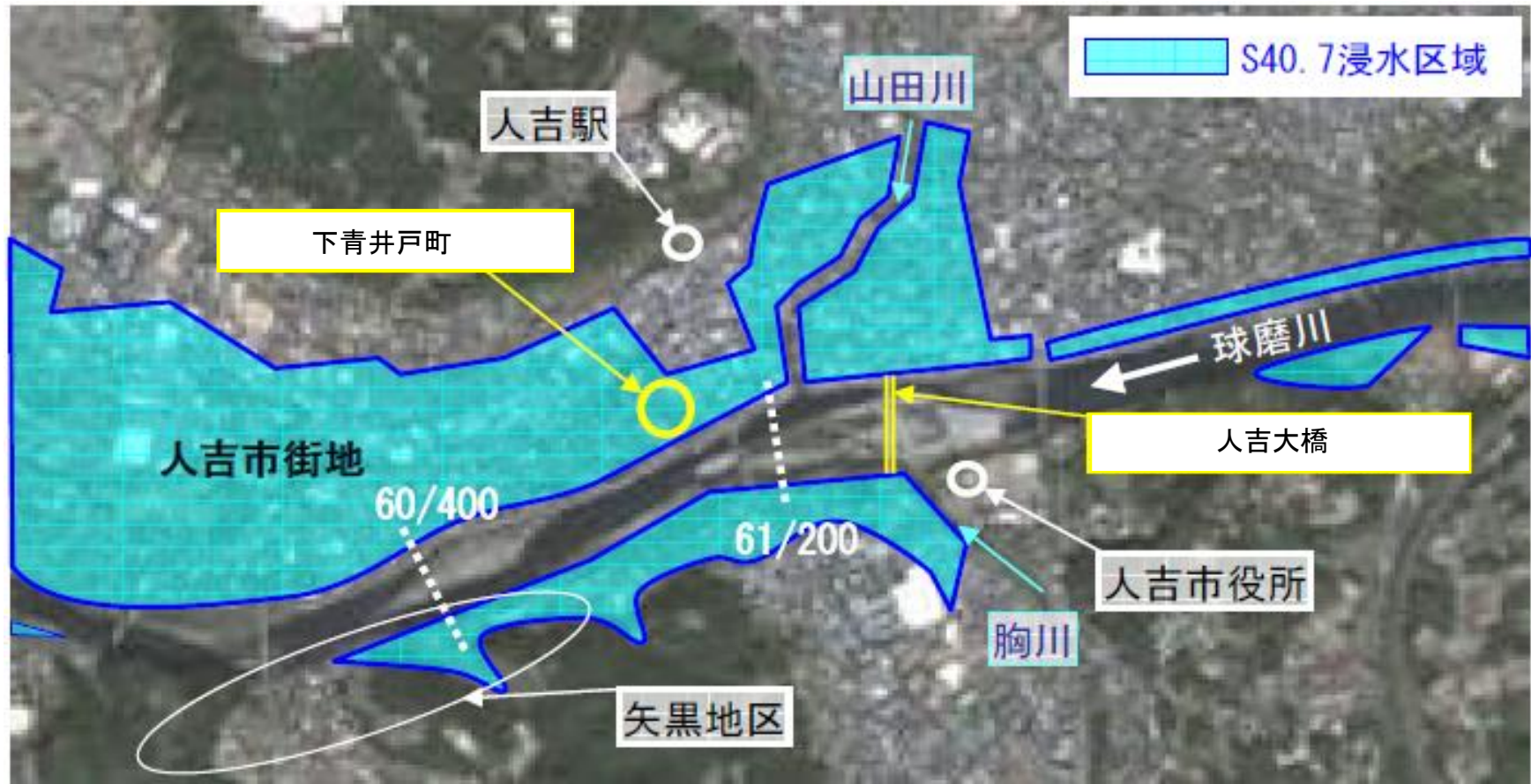


▲西瀬橋（人吉市）

出典：災害記録集「暴れ川 球磨川」（九州地方建設局 八代工事事務所、川辺川工事事務所）



▼昭和40年7月洪水の人吉市浸水区域



出典：資料「昭和40年洪水による人吉市街部の浸水の状況について」（国土交通省）

### 【令和2年7月豪雨の概要】

- 令和2年5月9日から7月31日にかけて、活動の活発な梅雨前線や発達した低気圧の影響により、沖縄地方から東北地方にかけての各地で大雨となった。特に、7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらした7月3日から7月31日までの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。
- 熊本県球磨川流域では、7月2日から同月31日にかけて本格的な大雨となり、熊本県球磨郡あさぎり町では72時間降水量が統計開始最大の660mmを記録した。

#### ▼令和2年7月豪雨による球磨川水系の被災状況

死者（人吉市、球磨村）	42名
浸水戸数	約7,400戸
浸水範囲	1,060ha

出典：資料「令和2年7月豪雨による被害状況等について」（内閣府）

資料「令和2年7月豪雨による被害と対応」（国土交通省）

### 【令和2年7月豪雨の被災状況】



▲流木が堆積した球磨川水系中園川



▲護岸が崩落した球磨川水系芋川



出典：「権限代行河川（県管理区間）の被災・復旧状況」九州地方整備局 八代河川国道事務所 HP

## 【令和2年7月豪雨の被害状況】

### 資料4 被害状況

○令和2年7月豪雨による被害状況

■人的・住家被害の状況（令和3年1月7日14時00分現在 消防庁資料より）

都道府県	人的被害				住家被害						
	死者 人	行方 不明者 人	負傷者		合計 人	全壊 棟	半壊 棟	一部 破損 棟	床上 浸水 棟	床下 浸水 棟	合計 棟
			重傷 人	軽傷 人							
青森県										1	1
岩手県									1	28	29
秋田県								3	10	77	90
山形県			1		1	1	62	7	150	555	775
福島県				1	1					26	26
栃木県										0	0
群馬県								1			1
埼玉県								77		2	79
千葉県										2	2
東京都									3		3
神奈川県				1	1			6	1	9	16
新潟県									3	49	52
富山県	1				1					1	1
福井県										3	3
山梨県										4	4
長野県	1		2		3		1	4	5	109	119
岐阜県			1	1	2	6	36	85	31	304	462
静岡県	1				1		2	41	12	59	114
愛知県							1	8		20	29
三重県								9	7	8	24
滋賀県									1	12	13
京都府				2	2		1	7		29	37
大阪府								4		1	5
兵庫県						2			4	1	7
奈良県									1	2	3
和歌山県				1	1			3		6	9
島根県						2	40	3		52	97
岡山県							1			17	18
広島県	2		2	1	5	1	11	15	4	111	142
山口県							4		17	192	213
徳島県						1					1
愛媛県	2			1	3	1	2	34	5	67	109
福岡県	2		5	4	11	14	992	977	681	1,920	4,584
佐賀県				3	3	2	9	7	25	144	187
長崎県	3		1		4	4	3	4	124	136	271
熊本県	65	2	10	34	111	1,490	3,092	1,940	329	561	7,412
大分県	6		1	1	8	68	209	202	129	469	1,077
宮崎県						4	3		2	13	22
鹿児島県	1			4	5	25	35	66	136	300	562
合計	84	2	23	54	163	1,621	4,504	3,503	1,681	5,290	16,599

- 180 -

出典：「災害時気象報告 梅雨前線等による令和2年5月9日から7月31日にかけての大雨等」  
気象庁（R3.3.12）



## 【令和2年7月豪雨の人的被害の状況】

### 2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人的被害の状況(犠牲者の年齢構成等))

36

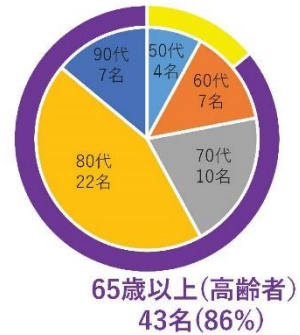
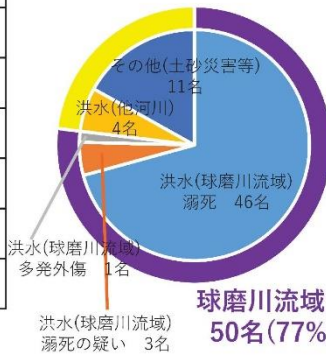
- 令和2年7月豪雨による県内の犠牲者は65名。その内、球磨川流域の犠牲者は50名と推測され、全体の77%を占める。
- 死因は、49名が溺死(疑いも含む)、1名が多発外傷。
- 市町村別では、球磨村が最も多く25名。人吉市が20名。
- 犠牲者は、65歳以上の高齢者が86%。また、75歳以上の高齢者が70%(35名)。

#### 市町村別犠牲者数

	全体	うち 球磨川流域
球磨村	25	25
人吉市	20	20
芦北町	11	1
八代市	4	4
津奈木町	3	0
山鹿市	2	0
合計	65	50

※犠牲者数については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)を基に記載。  
※球磨川流域の犠牲者数については、熊本県災害対策本部資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」と「死因」等から推測

犠牲者(全体65名)内訳



球磨川流域  
50名(77%)

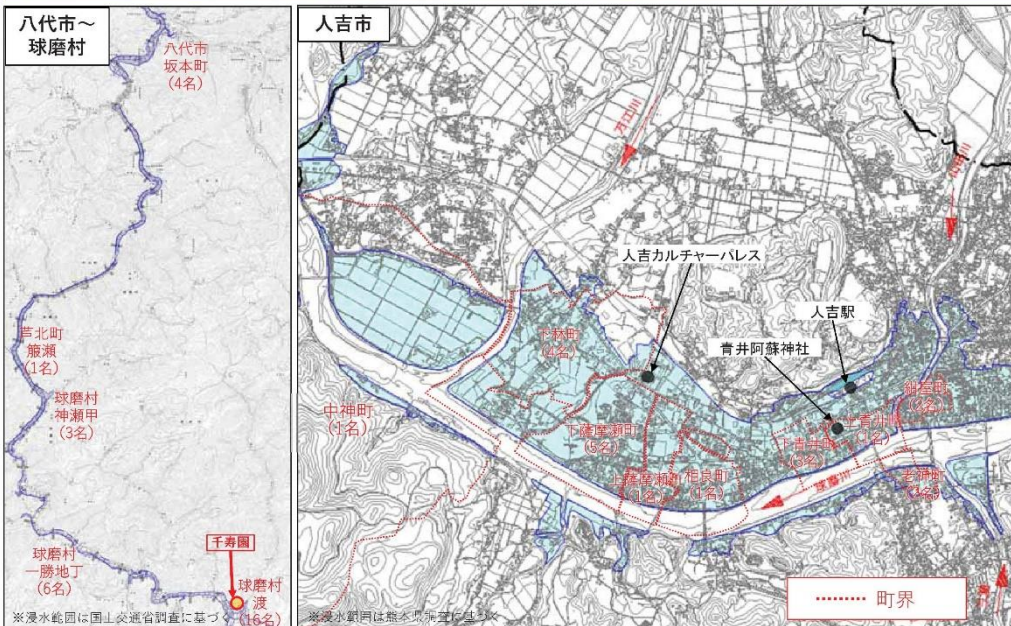
65歳以上(高齢者)  
43名(86%)

※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

### 2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人的被害(発生場所の状況))

37

- 球磨川流域の犠牲者(50名)の発生場所の状況※については下図のとおり。
- 人吉市の犠牲者(20名)は、概ね浸水範囲と一致し、浸水範囲が広い右岸側に集中している。
- ※発生場所については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」に基づき集計したものを記載。

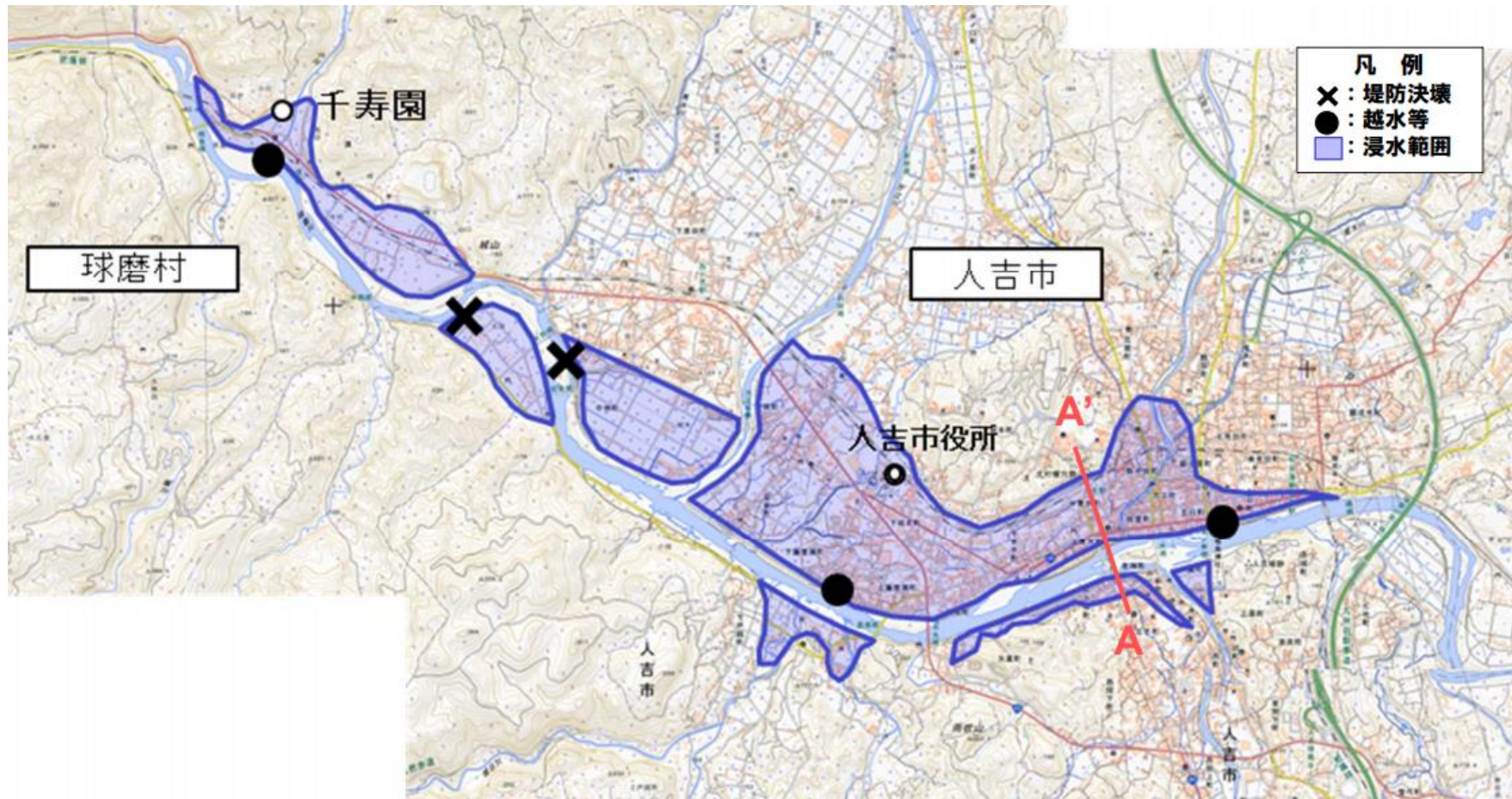


※浸水範囲は国土交通省調査に基づき、※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

出典：「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」(九州地方整備局・熊本県)



▼令和2年7月豪雨の人吉市、球磨村浸水区域



出典：資料「令和2年7月豪雨による被害と対応」（国土交通省）



【令和2年7月豪雨時に被災した西瀬橋】

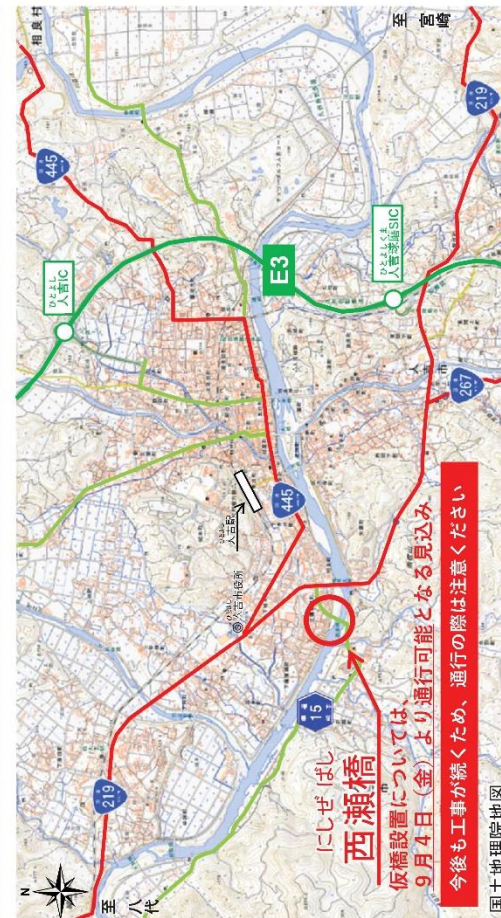
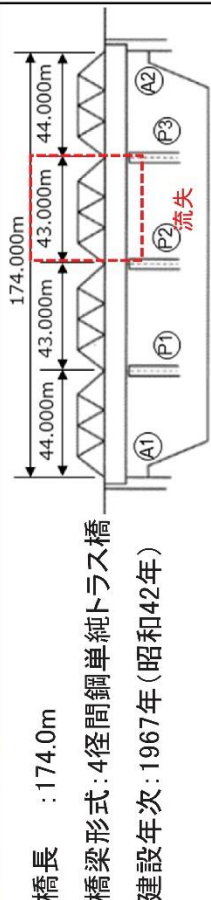
主要地方道 人吉水保線 西瀬橋 仮橋設置状況

にしぜ ばし

＜被災状況概要＞

- 上部工:P2～P3間 約43m流失
- 下部工:A2側護岸流失
- ＜応急復旧＞
- 応急組立橋による仮橋架設

■ 西瀬橋諸元



現在、500tクレーンによるベント設置中

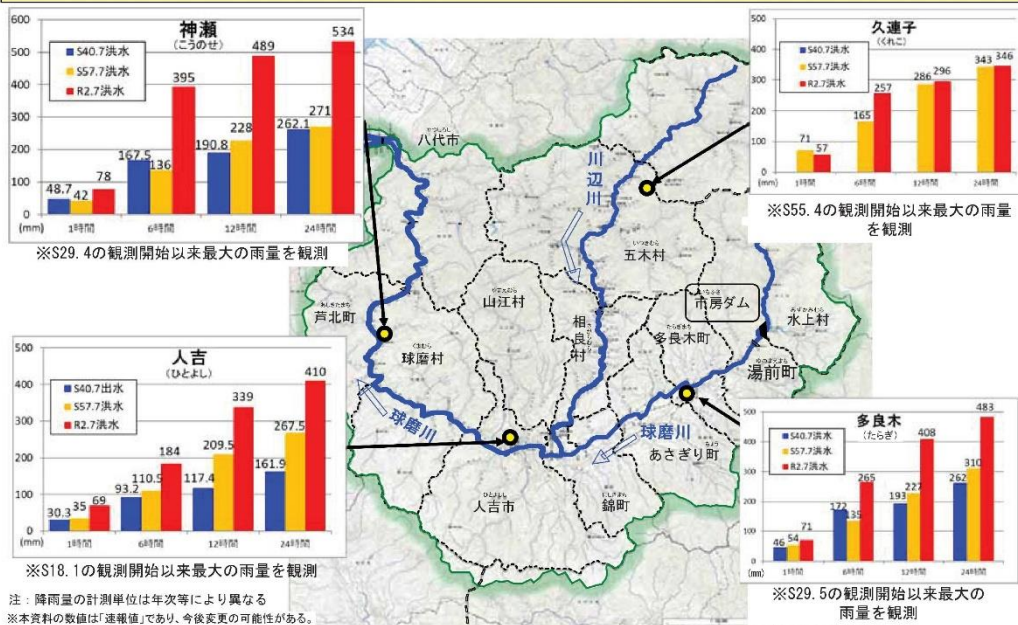
出典:「九州地方整備局記者発表資料」(九州地方整備局・熊本県)



## 【令和2年7月豪雨と過去水害との比較】

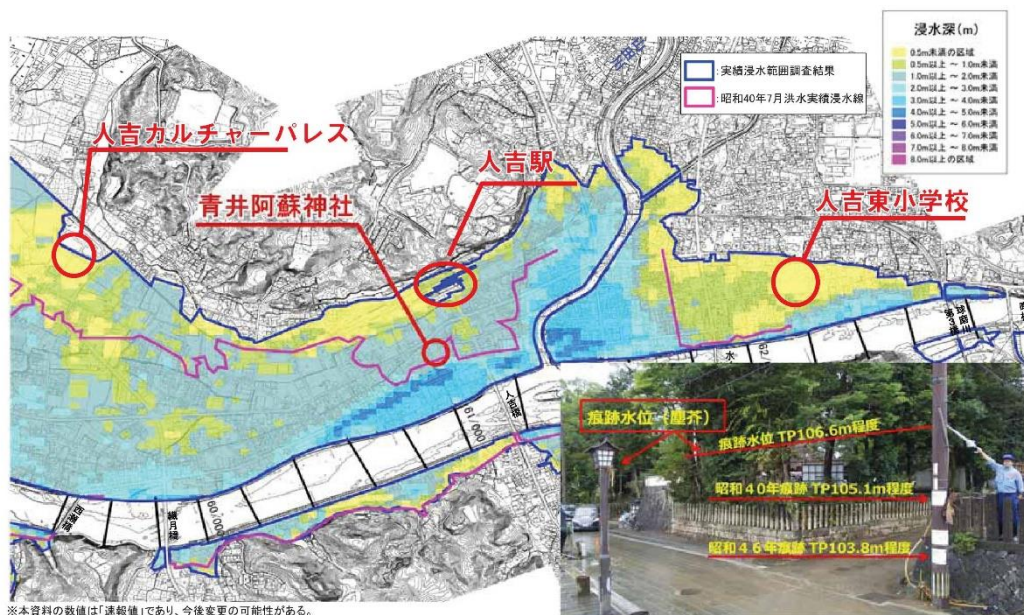
### 1. 令和2年7月豪雨の概要（観測雨量） 4

○球磨川本川の中流部から上流部及び最大支川の川辺川の各雨量観測所における降雨量は、6時間雨量、12時間雨量及び24時間雨量において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る降雨を記録した。



### 2. 令和2年7月豪雨の被害状況（人吉市街部） 26

○青井阿蘇神社付近では、S40.7洪水時よりも約1.5m深い浸水深であった。  
 ○S40.7洪水時に浸水が無かった人吉駅や人吉カルチャーパレス、人吉東小学校においてもR2.7洪水時には浸水が確認されており、広範囲の浸水被害となった。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

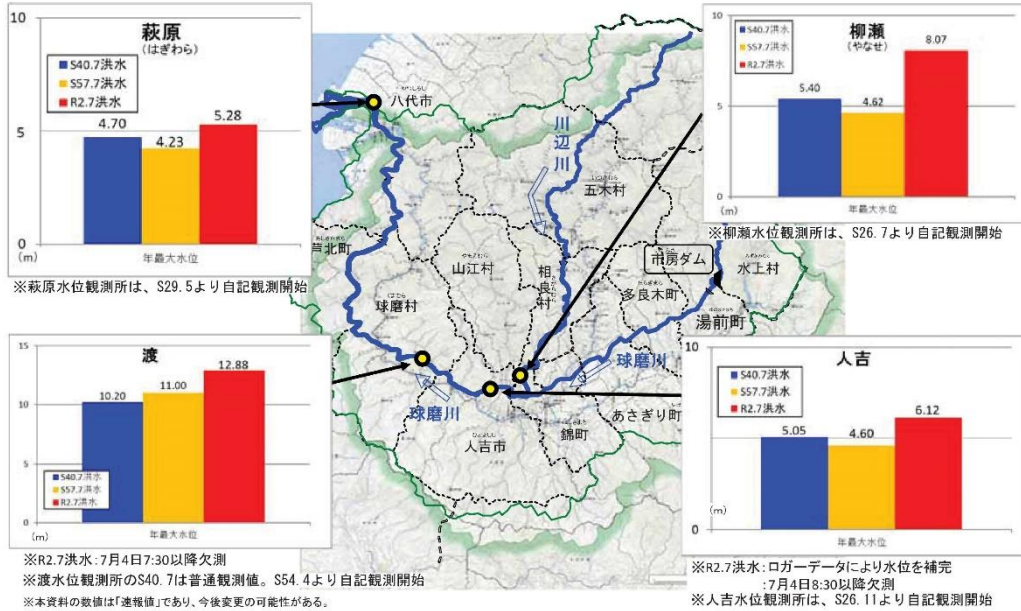
出典：「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」（九州地方整備局・熊本県）



1. 令和2年7月豪雨の概要(国管理区間の観測水位)

8

○球磨川本川の下流部から中上流部及び支川川辺川(国管理区間)の各水位観測所において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る水位を記録し、萩原、渡、人吉、柳瀬のいずれも観測開始以来最高水位を記録した。



出典:「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」(九州地方整備局・熊本県)

### 【昭和 38 年 8 月の土石流災害復興記念碑：熊本県球磨郡五木村甲字横手 災害復興記念碑】

- ・昭和 38 年 8 月 17 日 9 時頃から集中的に襲来した豪雨は、九電五木川第 2 発電所の観測によると 12 時から 13 時までの時間雨量 140mm に達するという空前の降雨となり、川辺川水系の五木村、相良村においては、随所に山津波が発生し、山津波と濁流は、尊い多数の人命と、貴重な施設、住家、山林、田畑を流し去った。熊本県災害誌によると、死者・行方不明者 12 名、全半壊流出家屋 212 戸、浸水家屋 296 戸とされている。
- ・この碑では、昭和 38 年(1963)8 月 17 日、集中豪雨により横手谷で、死者 10 名、行方不明者 1 名を出す土石流が発生したと記載されている。
- ・平成 7 年 8 月、再びこのような災害が発生しないよう、またこの地域が平和でますます発展するようお願い、災害復興記念碑を建立した。



▲災害復興記念碑

#### ■災害復興記念碑の碑文

昭和三十八年八月十七日、本村全域にわたって突如として襲った集中豪雨は、甚大なる被害をもたらした。特に、当横手地区や鶴地区に発生した山津波による大災害は、まさに生き地獄そのものの様相であった。死者十名、行方不明一名の尊い命が水魔の犠牲となられ、又横手地区では全戸が流出した。

各地の被災地は、国の激甚災害の指定を受け、県、村当局はもとより村民の懸命の努力により、面影はないほど様変わりし、立派に復旧し今日に至っている。

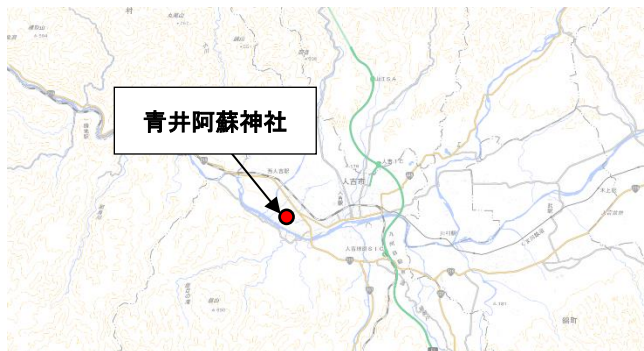
この度村当局において、この地に公園を整備されるにあたり、再びこのような災害が発生しないよう、又この地域が平和で益々発展することを願い、この記念碑を建立したものである。(平成七年八月 災害復興記念碑建立期成会有志一同)

出典：国土地理院

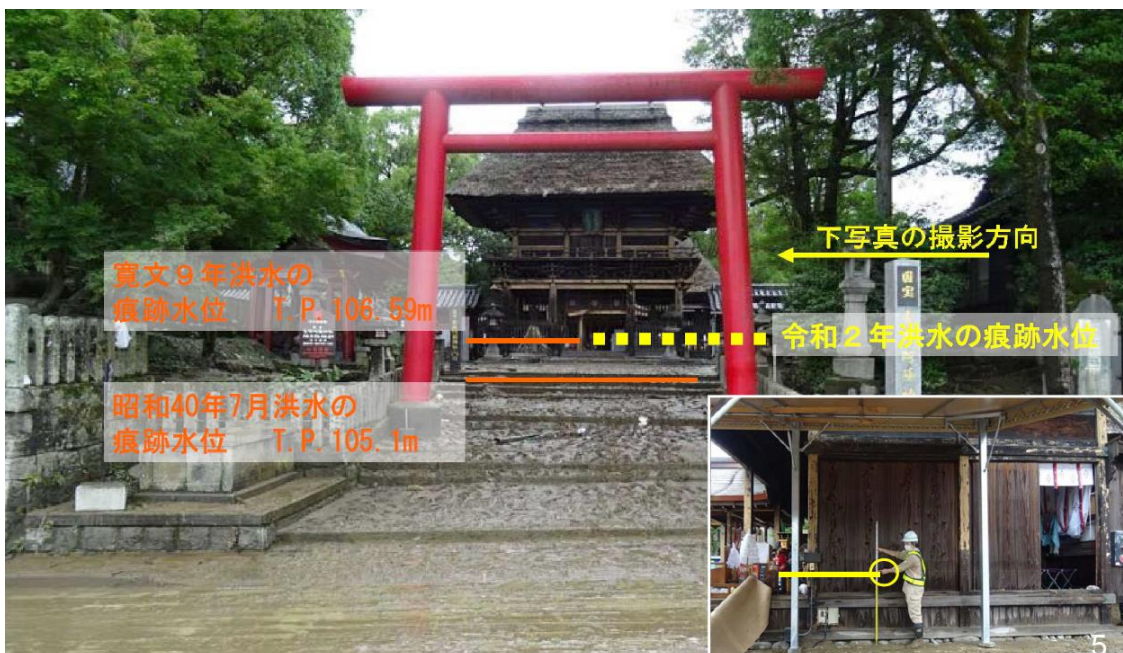


**【寛文9年洪水の痕跡が残る：熊本県人吉市上青井町 国宝 青井阿蘇神社】**

- ・人吉市の中心部に位置する青井阿蘇神社には寛文9年洪水の洪水の痕跡が残っている。
- ・令和2年7月豪雨による洪水は、昭和40年7月洪水を上回り、寛文9年（1669年）洪水と同程度の浸水深であったことが推定される痕跡が残っている。



▲青井阿蘇神社の位置（熊本県人吉市上青井町）



▲過去の洪水の痕跡が残る青井阿蘇神社正面

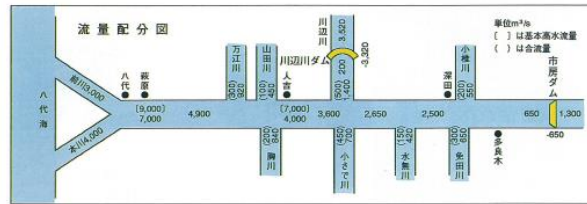


▲令和2年7月豪雨時の青井阿蘇神社

出典：「2020年7月豪雨に伴う熊本県南部における災害調査速報」（熊本大学減災研究教育センター）

出典：資料「令和2年7月豪雨による被害と対応」（国土交通省）

<参考文献>「暴れ川」球磨川 水害及び治水歴史」(九州地方建設局八代工事事務所、九州地方建設局川辺川工事事務所)



球磨川の水害及び治水史

西 暦	年 号	水害又は治水の概要
1614年 6月	慶長 19年 4月	球磨郡人吉庄岩瀬、洪水により4月28日流落。
1619年	元和 5年	肥後藩主加藤忠広の命により、加藤右馬允正方が萩原堤防を築造。
1644年 6月	正保元年 5月	多雨のため、湯前多福山・湯前寺の雄崩れ寺院民家埋没し、死者多し。
1662年	寛文 2年	人吉の商人・林正盛が球磨川の開削工事に着手。
1664年	寛文 4年	球磨川の開削工事完成。舟運の便が開かれる。
1669年 9月	寛文 9年 8月	青井阿蘇神社の楼門が3尺余り浸水。記録によれば人吉大橋、小保橋が流失して浸水家屋1,432戸、死者11人の被害を受けている。
1671年 8月	寛文 11年 7月	大洪水、大橋流失。
1677年 7月	延宝 5年 6月	八代萩原塘切松流る。八代、球磨、死者432人。
1697年	元禄 10年	高橋重政が幸野溝の工事に着手。
1705年	宝永 2年 12月	幸野溝完成。百太郎溝完成。
1712年 8月	正徳 2年 7月	豪雨洪水。大橋(小保橋)3径間落つ。青井阿蘇神社楼門まで浸水。
1713年 8月	正徳 3年 7月	暴風雨洪水。大風雨洪水大橋3径間落、市房山山沙湧出し、大岩石転落、御供所倒壊す。五木村西保人山崩れ。
1714年 7月	正徳 4年 6月	球磨大雨洪水。
1722年 7月	享保 7年 5月	球磨川大洪水。
1730年 5月	享保 15年 4月	洪水、大橋落つ。
1737年 8月	元文 2年 8月	・球磨郡、大雨洪水。
9月	9月	・球磨郡、大雨洪水。
1739年 7月	元文 4年 6月	人吉洪水。
1743年 9月	寛保 3年 8月	暴風雨、家屋の倒壊相当あり。



球磨川の水害及び治水史

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1755年 7月 (1日) 7月 (9日)	宝暦 5年 6月 (1日) 6月 (9日)	・洪水。「八代萩原堤9日間破損し……」(近代肥後年表)とある。  ・1日より是日に至る球磨郡大水、芦北郡の瀬戸石山とが、たちまち崩れて球磨川をせき留め、川浪さかまきて山を包み陸に登る。 (肥後の風土誌)  5月中旬より雨降り続き6月8日夜より甚雨前代未聞の洪水なり、大手門内並びに城外小路町方面舟にて往来し、人を助る所多し、田畑の損害多し、6月9日球磨川大洪水、熊本追間岩村崩る。 (球磨郡誌)  芦北郡瀬戸石山崩れ、球磨川に流れ込み、一時流れを止めしめたため、水勢一層激烈となり上流巾10間余、根張り40間余の八代萩原堤900間破損す。 (近世肥後年表)(下益城郡誌)とあり、寛文洪水を上回る洪水と見なせる。
1758年 8月	宝暦 8年 7月	球磨大風雨。
1759年	宝暦 9年 7月	木上溝の工事に着手。
1762年 9月	宝暦 12年 8月	人吉大風雨洪水。田畑の損失9,380石余。
1766年 7月	明和 3年 5月	「4月より雨降り続き度々洪水あり。5月25日夜より甚雨洪水・増水1丈7尺余、城内水付外曲輪石垣崩る。田畑損失12,988石余。」(球磨郡誌)とあり、かなり規模の大きな洪水であったと考えられる。
1769年 8月	明和 6年 8月	暴風雨洪水。
1772年 6月	明和 9年 5月	人吉大風雨。
1775年 8月	安永 4年 7月	人吉大風雨洪水。損失4,300石。
1788年 4月 12月	天明 8年 3月 11月	・人吉洪水。 ・人吉洪水。
1789年 7月	寛政元年 6月	豪雨。
1796年 9月	寛政 8年 5月	球磨大洪水。水流は人吉城の大手門まで来る。
1810年 4月	文化 7年 3月	豪雨。
1816年 7月	文化 13年 6月	球磨川大増水。

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1816年 9月 10月	文化 13年 8月 9月	・大風雨洪水。 ・人吉大風雨。
1827年 6月	文政 10年 5月	豪雨。
1828年 6月 7月	文政 11年 5月 5月	・大雨洪水。 ・雷風洪水。
1830年 7月	天保 元年 6月	暴風雨洪水。
1831年 6月	天保 2年 5月	豪雨洪水。「5月上旬以来梅雨しきりに降り、是日強雨にて……」(近世肥後年表)とあり、かなり規模の大きな洪水であったと考えられる。
1831年 7月 7月	天保 2年 5月 6月	・豪雨洪水。 ・球磨川出水。増水1丈9尺。
1834年 6月	天保 5年 5月	豪雨洪水。
1835年 5月	天保 6年 4月	豪雨洪水。
1837年 6月	天保 8年 5月	球磨川洪水。
1841年 6月	天保 12年 4月	豪雨。八代方面殊に烈し。
1843年 6月 10月	天保 14年 5月 9月	・球磨川出水。 ・豪雨洪水。洪水のため大橋落つ。
1847年 8月	弘化 4年 6月	球磨川大洪水。水新馬場に上る。
1884年	明治 17年 7月	洪水。球磨川の堤防決壊。
1885年	明治 18年 6月	暴風雨洪水。八代で堤防決壊し、家屋10軒、田畑100町歩浸水。
1888年	明治 21年 6月	人吉、八代で被害多く、溺死3人、家屋の流失6軒、さらに橋の流失等が記録されている。
1889年	明治 22年 7月	豪雨によって球磨川が氾濫し、濁流は人吉町札之辻に達する希有の大洪水であった。

球磨川の水害及び治水史

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1891年	明治24年 24年 9月	・松岡長安が水路工事をを行い、舟運を開く。 ・暴風雨により、八代市では溺死者6人、圧死者6人、負傷者多数を出す。
1899年	明治32年 6月	人吉にて160mm、多良木にて178mmの降雨量があり、球磨川の水位は人吉で8尺、八代で1丈2尺に達し、堤防・橋梁等を破損した。
1909年	明治42年 7月 8月	・水位は八代で1丈3尺に達し、堤防の決壊が記録されている。 ・強雨のため水位は1丈となり、橋の流失が2ヶ所あった。
1911年	明治44年 5月 6月	・低気圧性の豪雨により、水位は八代で1丈3尺に達し、人吉町では浸水家屋50戸、橋の流失2ヶ所等の被害を受けた。 ・球磨川氾濫。
1912年	明治45年 7月	人吉で田畑の浸水が甚だしかった。
1914年	大正 3年 6月	6月15日より28日に至る14日間の長雨となり、球磨川で被害が発生した。
1916年	大正 5年 6月 7月	・八代で1丈の水位を記録し、堤防決壊して相当の被害を受けた。 ・球磨川の増水1丈余となり、橋梁6ヶ所の流失を記録。
1917年	大正 6年 8月	八代の水位は1丈5尺に達し、小舟や材木の流失多く、浸水家屋を出した。
1918年	大正 7年 6月 7月	・球磨郡山江村で崖崩れあり、圧死者3人を出した。 ・球磨川の水位は人吉付近で9尺5寸の増水となった。
1919年	大正 8年 6月	球磨川上流域に豪雨があり、流域全域にわたって災害をもたらした。
1921年	大正10年 6月	豪雨洪水。
1923年	大正12年 6月 7月	・球磨川の水位は1丈2尺に達し、氾濫のため川筋に被害が発生した。 ・豪雨洪水。特に八代、芦北の被害が大きかった。
1926年	大正15年 7月	低気圧性の豪雨により、人吉の大橋狭口で1丈2尺、大橋際では1丈5尺という出水が記録され、浸水家屋は人吉で200戸、大村で300戸に達し、流失家屋3戸、また川辺川・柳瀬の両井手は全壊という被害を受けた。

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1927年	昭和 2年 8月	九州中部に停滞した前線に対し、小台風が九州西方を通過したため豪雨となり、家屋の損壊・流失32戸、浸水家屋500戸等を記録する大洪水であった。
1929年	昭和 4年 7月	5日～8日までの雨量は八代で450mmを越え、床上浸水244戸等の被害を受けた。
1932年	昭和 7年 7月	八代での増水は1丈4尺に達した。
1936年	昭和11年 7月	人吉で家屋の浸水、橋の流失あり。
1937年	昭和12年	球磨川の直轄河川改修工事が着手される。
1941年	昭和16年 4月 7月	・球磨地方に豪雨発生し、人吉では5尺急に増水して、小舟40隻が流失した。 ・八代市付近が小範囲の豪雨区域となり、八代地方の浸水家屋は2,560戸に達した。
1943年	昭和18年 9月	台風による洪水。
1944年	昭和19年 5月 7月	・豪雨により球磨川氾濫。 ・前線性の局地的な集中豪雨型で中流部、下流部の出水が大きく、死傷者及び行方不明者23人、家屋損壊・流失507戸、床上浸水1,422戸、田畑流失400ha、堤防決壊13箇所、橋梁流失36箇所、道路決壊98箇所、肥薩線不通7日間等の被害を受けた。また、このとき前川堰が決壊した。
1947年	昭和22年	球磨川上流の人吉球磨地区の直轄改修事業が着手される。
1949年	昭和24年 6月 7月 8月	・デラ台風の通過により豪雨となり、特に人吉地方に多く、球磨川流域に被害が発生した。 ・球磨盆地に雨が多く、崖崩れや田畑の流失及び堤防決壊等の被害を起こした。 ・ジュディス台風。降水量が非常に多く、球磨盆地では400～600mm以上の豪雨となり、家屋の損壊・流失10戸、床上浸水890戸、耕地の流失70ha、冠水4,100ha、27ヶ所等の被害を受ける大洪水となった。
1950年	昭和25年 9月	キジア台風。降雨は流域に平均して多く、家屋の損壊・流失28戸、床上浸水1,577戸、耕地の流失67ha、橋梁損害18ヶ所等の被害を受けた。



球磨川の水害及び治水史

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1951年	昭和26年 7月	・球磨川流域ではおよそ半月にわたる降雨（6日～19日）が続き、八代市で床上浸水98戸、床下浸水65戸、耕地の冠水865ha、流失埋没43ha等の被害を受けた。
	10月	・ルース台風。球磨地方は台風進路の中心であったため、甚大な被害を受けた。
1953年	昭和28年 6月（5日）	・ジュディ台風が人吉市を通過したため、県南部を中心に被害が発生した。
	6月（26日）	・球磨郡で床下浸水10戸、道路損壊3ヶ所の被害があった。
	7月（9日）	・八代市で床下浸水400戸、水田冠水46ha、水田浸水150ha、畑冠水29ha等の被害を受けた。
	7月（18日）	・八代市の被害は床上浸水406戸、床下浸水3,513戸等に及んだ。
	昭和29年 6月（25日）	・八代市で床下浸水169戸、田畑冠水364ha、道路損壊9ヶ所等の被害があった。
1954年	6月（29日）	・大雨のため、八代地方に被害が発生した。
	7月	・梅雨前線による大雨で、家屋浸水、水田冠水等の被害が発生した。
	8月	・人吉市を通過し、宮崎、大分の県境に抜けた5号台風により、死者及び行方不明者6人、家屋損壊流失106戸、床上浸水562戸、耕地流失・埋没1,270ha、冠水1,190ha、橋梁損傷14ヶ所等の被害を受ける大洪水となった。
	9月	・本川上流に近年にない多量の雨を降らせた12号台風により、球磨郡における死者及び行方不明者28人、家屋の損壊206戸の被害を受けた。
1955年	昭和30年 6月	・梅雨前線による大雨のため、床下浸水等の被害があった。
	9月	・22号台風により、人吉市での被害は床上浸水88戸、水田浸水148ha等に及んだ。
1956年	昭和31年	市房ダム計画と関連して、上下流一貫した球磨川改修計画を決定した。
1959年	昭和34年 7月（8日）	・8日夜から9日早朝にかけての集中豪雨による被害は、錦村で水田冠水30ha、煙草冠水5ha、球磨・多良木・免田などで水田冠水45ha、煙草冠水5ha等であった。
	7月（15日）	・梅雨前線と5号台風が重なった豪雨により、人吉市では床下浸水21戸、田畑冠水23ha、山田川の堤防一部決壊1ヶ所等の被害があった。

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1960年	昭和35年 3月	・市房ダム完成。昭和36年5月より熊本県に移管。 ・川辺川ダムの直轄調査が開始される。
1962年	昭和37年 7月	人吉市から球磨川下り中の川船1隻が一勝地付近で浸水転覆し、乗客9人が死亡、1人が重傷を負った。14日は前日からの梅雨前線による大雨で球磨川は大増水、濁流うずまく悪条件下でのできごとであった。
1963年	昭和38年 8月（14日）	・八代市では山津浪のため死者5人、行方不明者2人、重軽傷6人を出す被害となった。
	8月（17日）	・川辺川流域を中心に集中的な豪雨が降った。 被害は川辺川筋において甚かつ未曾有りと言われ、死傷者及び行方不明者46人、家屋損壊及び流失281戸、床上浸水1,185戸、耕地流失及び埋没150ha、冠水1,200ha、橋梁損傷86ヶ所、堤防損傷31ヶ所等、その大部分が川辺川筋におけるものであった。
	昭和39年 8月	全川的に比較的均等な降雨であったため、大きな出水となり、人吉市を中心に被害は大きく、死傷者及び行方不明9人、家屋損壊及び流失44戸、床上浸水753戸、橋梁損傷30ヶ所等に及んだ。
1965年	昭和40年 4月	・新河川法が施行される。
	6月	・球磨川逢祥堰下流の堤防が氾濫。 渡町石尾の旧国道3号線が不通になった。
	7月	・梅雨後期の停滞前線により、集中的な豪雨が降って大出水となった。人吉では市街地のおよそ2/3が浸水し、市内の青井阿蘇神社楼門の礎石のところまで水が押し寄せたのは正徳2年（1712年）大洪水の時以来といわれている。 八代でも近來まれな大出水となり、萩原堤が損傷し、前川堰が決壊するとともに、八代市街部も浸水した。 関係市町村の被害状況は、死者及び行方不明者6人、家屋の損壊・流失1,239戸、床上浸水2,847戸であった。
	11月	・新前川堰、球磨川堰に着手。
1966年	昭和41年 4月	・球磨川の一級水系指定に伴い、昭和40年7月洪水を対象に水系一貫した工事実施基本計画が策定された。
	9月	・人吉地区特殊堤工事として、まず九日町特殊堤工事に着手。
1967年	昭和42年 3月	新前川堰、球磨川堰竣工。
1969年	昭和44年	川辺川ダムの建設に着手。
1970年	昭和45年	金剛橋の架替工事に着手。

球磨川の水害及び治水史

西 暦	年 号	水 害 又 は 治 水 の 概 要
1971年	昭和46年 8月	大型台風19号が九州西岸を通過したため豪雨をもたらしたもので、上流部の未改修箇所及び無堤箇所から浸水し、人吉市及び球磨郡錦町、相良村、多良木町の低地部では大きな被害を受けた。支川山田川の内水被害も含め、氾濫面積は16ヶ所、およそ4k㎡に及んだ。
1972年	昭和47年 7月	梅雨前線の活動による長期間の出水であったため、河床、川岸の洗掘により、護岸、根固めの損傷など河道災害が多く発生した。また、下流八代の流量実績は計画高水流量の9割に近い規模であった。
1973年	昭和48年 3月 4月	・金剛橋の架替工事完了。 ・球磨川中流地区及び派川南川が直轄管理区間に編入される。
1974年	昭和49年 7月	直轄河川改修計画を策定。
1978年	昭和53年 2月 9月	・南川分流工事に着手。 ・九日町排水機場工事に着手。
1979年	昭和54年 6月 7月	・梅雨前線の活動による大雨で、球磨川中流の坂本地区の31戸の浸水を始め、深水、今泉等で家屋の浸水被害を受けた。 ・停滞していた前線が低気圧の接近により活発な活動を始め、球磨川流域に多大の降雨をもたらした。無堤地区からの溢水氾濫並びに内水氾濫によって、球磨川中流地区で17ヶ所の浸水被害を受け、家屋の浸水900戸に上がった。
1980年	昭和55年 3月	九日町排水機場工事完成。
1981年	昭和56年 2月	南川分流工事完了。
1982年	昭和57年 7月 (12日) 7月 (25日)	・11日夜半より降り始めた雨はその後集中的な豪雨となり、このため多良木町、球磨村、坂本村に床上・床下浸水の被害が多く、上流域では水田の冠水被害が多かった。 ・停滞した梅雨前線は24日夜半より活発な活動を始め、球磨川流域全域に日雨量300mm～400mmの集中的な豪雨をもたらし、昭和40年7月洪水以後の最大規模の大出水となった。被害は上流部の人吉市、中流部の球磨村、坂本村に多く、死者4人、家屋の全・半壊37戸、床上・床下浸水5,027戸等の甚大な被害を受けた。
1985年	昭和60年 7月	人吉地区の特殊堤工事完了。
1988年	昭和63年 3月	球磨川水系工事実施基本計画の一部を改定。

III. 水害写真及び新聞記事

球磨川で大きな水害をひきおこした主要な洪水の記録として、新聞記事と水害写真をとりまとめました。

新聞記事については明治22年からの資料があり、水害写真は昭和38年以降の記録です。

なお、ここでとりまとめた洪水は次のとおりです。

洪 水 一 覧 表

洪 水 名
1. 明治22年(1889年)7月24日洪水
2. 明治24年(1891年)9月14日洪水
3. 大正 8年(1919年)6月14日洪水
4. 大正12年(1923年)6月16日～19日洪水
5. 大正15年(1926年)7月 7日洪水
6. 昭和 2年(1927年)8月11日洪水
7. 昭和 4年(1929年)7月 5日～ 8日洪水
8. 昭和16年(1941年)7月 4日～11日洪水
9. 昭和18年(1943年)9月20日洪水
10. 昭和19年(1944年)7月21日～22日洪水
11. 昭和24年(1949年)6月18日～21日洪水
12. 昭和24年(1949年)8月15日～17日洪水
13. 昭和25年(1950年)9月12日～13日洪水
14. 昭和26年(1951年)7月 9日～10日洪水
15. 昭和29年(1954年)8月16日～18日洪水
16. 昭和29年(1954年)9月13日洪水
17. 昭和38年(1963年)8月17日洪水
18. 昭和39年(1964年)8月24日洪水
19. 昭和40年(1965年)7月 3日洪水
20. 昭和46年(1971年)8月 3日～ 5日洪水
21. 昭和47年(1972年)7月 4日～ 6日洪水
22. 昭和54年(1979年)6月26日～30日洪水
23. 昭和54年(1979年)7月17日洪水
24. 昭和57年(1982年)7月12日洪水
25. 昭和57年(1982年)7月25日洪水



▼球磨川水系既往洪水の概要

洪水発生年		原因	洪水被害の概要
昭和2年	1927年	—	家屋損壊・流出32戸 浸水家屋 500戸
昭和19年	1944年	—	家屋損壊・流出507戸 床上浸水1,422戸
昭和29年	1954年	台風	家屋損壊・流出106戸 床上浸水562戸
昭和38年	1963年	前線	家屋損壊・流出281戸 床上浸水1,185戸、床下浸水3,430戸
昭和39年	1964年	台風	家屋損壊・流出44戸 床上浸水753戸、床下浸水893戸
昭和40年	1965年	梅雨	家屋損壊・流出1,281戸 床上浸水2,751戸、床下浸水10,074戸
昭和46年	1971年	台風	家屋損壊・流出209戸 床上浸水1,332戸、床下浸水1,315戸
昭和47年	1972年	梅雨	家屋損壊・流出64戸 床上浸水2,447戸、床下浸水12,164戸
昭和57年	1982年	梅雨	家屋損壊・流出47戸 床上浸水1,113戸、床下浸水4,044戸
平成11年	1999年	台風	床上浸水3戸、床下浸水20戸
平成16年	2004年	台風	床上浸水13戸、床下浸水36戸
平成17年	2005年	台風	床上浸水46戸、床下浸水73戸
平成18年	2006年	梅雨	床上浸水41戸、床下浸水39戸
平成20年	2008年	梅雨	床上浸水18戸、床下浸水15戸
平成23年	2011年	梅雨	床上浸水4戸、床下浸水4戸
令和2年	2020年	梅雨	床上浸水4戸、床下浸水5戸

出典：「過去の洪水」九州地方整備局 八代河川国道事務所 HP

1. 白川の概要  
1.2 治水の沿革

表 1.2.1 主要な既往洪水被害一覧表

洪水発生年月日	要因	流域平均2日雨量 (代継橋上流)	代継橋水位 観測所水位	被害概要
昭和28年 6月25～28日	梅雨前線による豪雨 【現在の治水計画の目標 となっている洪水】	552.9mm	不明	死者行方不明422名、流失全壊家屋2,585戸、半壊家屋6,517戸、浸水家屋31,145戸、橋梁流失85橋、田畑の流失埋没1,372ha、冠水2,980ha、罹災者数388,848人
昭和32年 7月25～26日	前線による豪雨	257.3mm	3.55m	熊本市で死者行方不明83名、家屋の流失・全壊・半壊348戸、床上浸水8,627戸、床下浸水7,308戸、橋梁流失16橋
昭和37年 7月7～8日	—	226.0mm	3.62m	坪井川増水、井芹川堤防が決壊し、花園、寺原、世安町の低地で1,000戸が浸水
昭和38年 8月16～18日	低気圧、温暖前線による豪雨	359.9mm	4.78m	熊本市で床上浸水860戸、床下浸水1,837戸、堤防決壊14
昭和40年 6月30～7月3日	梅雨前線による豪雨	316.3mm	4.97m	家屋倒壊4戸、床上浸水340戸、床下浸水651戸、一の宮署管内で床上3戸、床下45戸、2日夜から3日朝にかけて、白川、井芹川、坪井川が氾濫、床上20戸、床下250戸で白川の安己橋が折れ曲がり、11日に崩壊
昭和55年 8月29～31日	前線による豪雨（台風の 影響）	416.4mm	5.88m	流域関連市町村の被害は死者・行方不明1名、家屋の全半壊18戸、床上浸水3,540戸、床下浸水3,245戸
平成2年 7月1～3日	梅雨前線による豪雨	379.0mm	5.79m	流域関連市町村の被害は、死者・行方不明14名、家屋の全半壊146戸、一部破損250戸、床上浸水1,614戸、床下浸水2,200戸
平成9年 7月6～13日	梅雨前線による豪雨	406.8mm	4.59m	流域関連市町村の被害は、家屋の一部破損3戸、床上浸水68戸、床下浸水664戸
平成11年 9月24日	台風18号による高潮被害	—	—	床上浸水7戸、床下浸水37戸、浸水面積11.3ha
平成19年 7月6～7日	梅雨前線による豪雨	318.7mm	4.93m	熊本市街部において、「避難準備情報」が発令
平成24年 7月12日	梅雨前線による豪雨	393.6mm	6.32m	白川沿川の被害は、家屋の全半壊183戸、床上浸水2,011戸、床下浸水789戸

※ 被害の概要は「昭和28年西日本水害調査報告書（土木学会西部支部）」、「熊本県災異誌（熊本地方気象台）」、「防災・消防・保安年報（熊本県）」、出水記録および熊本河川国道事務所調査結果による。  
平成24年7月洪水は国土交通省及び熊本県による調査結果。  
※ 被害の数値には内水被害、土砂災害を含む場合がある。